ぬくもり情報局

森林セラピー通信

# 森のたより

## 白銀の森を散歩しませんか？

みずみずしい夏の新緑、燃える様な秋の紅葉を経て、県民の森に冬がやってきました。

大きく垂れ下がるつららや未踏の雪原。その中で力強く生き抜く動物たちの気配をアニマルトラッキングから感じることができます。

冬晴れの中、スノーシューをはいて雪原を歩く

飯南町観光協会では、そんな冬の森を手軽に散歩するイベントを2月18日（日）に開催します。童心に返って、スノーシュー（西洋かんじき）を履いて一緒に冬の森の息遣いを感じに行きませんか。

**白銀の森さんぽ**

**日時** 2月18日（日）9時（道の駅赤来高原集合）

**定員** 10人

**参加費** 2千円

※積雪量や天候により開催できない場合もあります。

■申込み・問合せ／飯南町観光協会 電話76・9050

## 森林セラピー博学講座

雪原を歩くと、いろいろな跡があります。「誰の足跡だろう？」「どこにいったのだろう？」と推理していくのがアニマルトラッキング。

足跡や糞、毛など見つけて、探偵になったつもりで推理すると楽しめます。

写真は、森林セラピーロードでみつけた、イノシシの足跡です。深さが深いのは、大きさの証でしょうか？

イノシシの足跡

※アニマルトラッキング…雪面などに残された動物の足跡などから、その種類や行動を探ること

## マニアック&おもしろ 飯南町 歴史ばなし

今から50年以上前の昭和38年、日本海側各地を未曾有の豪雪が襲いました。いわゆる「さんぱち豪雪」です。

暮れから約２カ月間降り続いた雪は、すっぽりと飯南町を覆いつくしました。赤名での積雪量は445ｃｍを記録。

特に市街地では、屋根から降ろした雪が道に山となり、２階からの出入り、電線をまたいでの通行は、多くの人が経験しました。ライフラインも止まり、町は孤立状態に。自衛隊による緊急物資の投下も行われました。

飯南町民族資料館には、国指定重要民俗文化財「奥飯石および周辺地域の積雪期用具」150点が展示されています。雪とともに暮らした当時の生活の様子がしのばれます。

飯南町民俗資料館（見学無料）
※見学には、町教育委員会に事前連絡が必要（電話76・3944）

■お問合せ・情報提供
国道54号活性化アクションプラン推進協議会
電話76・2864



## 俳句　琴峯華俳句会　十二月例会作品抄

数へ日のひと日大きく過ぎゆけり　安部　豊枝
短日の陽の射す方に顔向けて　土池　博子
お揃ひと文添へてあり冬帽子　石田シヅカ
船にゐて船を見ており冬うらら　八嶋　敏江
冬帽子可愛と想うレジの前　垣内　良野
小春日や川を挟んで立話　山碕智惠美
真白なる紙の匂ひの日記買ふ　佐々木康子
縁側に豆選る音や峡小春　八嶋　昭男
新米を先ず神前と仏前に　森　征子

## 短歌　赤名短歌会　八月詠草

ほぐれては流るる冬の白き雲石蕗の花ひかりて黄色　岩佐　恒子
愛らしい園児のゆうぎに魅了されそのひとこまを心に刻む　吉川　暎子
べちゃ雪の攻め来る道をひた走る吾を招くよにイヌは尾立てり　烏田　勝信
ありがとうも云えずに別れし後悔を笑顔の遺影がなぐさめてくれし　門所　詠子
師の手より歌集「無何有」頂きてあやかりたきに夜はしんしん　澤田　勝登
迎へるは九十八歳からだ形を保ちつ春へ生きて行きたし　中村三四二
さざめきのやうに降りくる初雪に冬の楽譜の消えつ生まれつ　石田フクエ
星屑の凍てさうな夜は霜柱ぴしりぱしりと育ちゆくらむ　澤田久美子
ひと降りのあとに白きを巡らせて歳の終わりの時を知らしむ　清原　豊明
突越しに枯れ葉の舞うを眺めつつ見舞いの帰途は誰もが無口　本間　麗子
ピアニスト祥子ちゃんの演奏会はリストにショパンに夢のひととき　星野　敦子

## すこやかに

12月届出分

| 新生児 | 届出人 | 地区 |
|---|---|---|
| 内田　麻衣（まい）ちゃん | 優　子 | 頓原 |
| 竹田　栄太（えいた）ちゃん | 幸　平 | 頓原 |

## やすらかに

12月届出分

| お名前 | 親族 | 地区 |
|---|---|---|
| 齋藤　律男　様（94） | 崇 | 赤名 |
| 石田　榮俊　様（93） | 村上正行 | 波敷 |
| 後長　淳子　様（86） | 修司 | 井角 |
| 森山　道惠　様（88） | 圭司 | 上区 |
| 田邊　智雄　様（70） | 齋藤定信 | 下赤名 |

## 今月の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

それはだめ
みんなで声かけ
やらせない

赤名小3年　河原（かわはら）　幸良（ゆきら）さん
家族名　河原　利和（としかず）さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。

## 今月の表紙

志々地区の元旦マラソンは、志々乃村神社をスタートする距離1ｋｍと2ｋｍのコース。年季の入った鐘の「カランカラン」という、音で神社前をスタートしました。一年の計は元旦にあり、新年最初の行事ということで、参加者は、新年の澄んだ空気を肺いっぱいに吸い込んで、カメラを構える私の横を元気よく走り抜けていきました。